

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
<b>癰瘍剤 外瘍剤 (陽証) 11</b>		
とうのうさん 透膿散	補気益血・托毒潰膿	生黄耆 12g・当帰 6g・穿山甲 3g・皂角刺 4.5g・川芎 9g 水煎し酒を少々加えて服用する。
外科正宗	<p>&lt;主治&gt;</p> <p>癰瘍腫痛、正虚不能托毒 皮膚化膿症で化膿傾向が遅く、化膿しても排膿に至らず、切開しても稀薄な膿が少量流出するにとどまり、治癒傾向にも乏しい。</p> <p>&lt;病機&gt;</p> <p>正虚で托毒外透できない状態である。 膿は気血営衛が鬱滞して鬱熱腐敗したものであり、排膿することにより熱毒が外泄して治癒に向かうが、正気不足で托毒（熱毒を包み込んで持ち上げる意味）し外透することができないと、化膿傾向に乏しく、なかなか排膿せず、切開してもうすい膿汁が流出するに留まり、治癒傾向にも乏しくなる。</p> <p>&lt;方意&gt;</p> <p>扶正托毒し排膿を促進する。 主薬の生黄耆は益気托毒に働き（炙黄耆は補気のみで托毒の効能はなく、助火する弊害ももつ）、養血活血、生肌の当帰・川芎が補助する。穿山甲・皂角刺は病所に直達して消散穿透、軟堅潰膿に働き、少量の酒を加えることにより行血を強める。全体で托毒潰膿の効能が得られ、化膿、排膿を促進して治癒に導くことができる。</p>	
とうのうさん 透膿散	扶正祛邪・托毒排膿	<外科正宗>の透膿散 + (白芷 3g・牛蒡子 6g・金銀花 12g) 水煎し服用する。
医学心悟	<p>主治は、癰毒で化膿し潰破しないもの。</p> <p>&lt;外科正宗&gt;の透膿散に、辛散透邪、解毒の白芷・牛蒡子・金銀花の配合により、排膿を強めている。</p>	